

伝える！ つなげる！ ゴースマイル！



小宮の丘

教員日誌

学校 HP : <http://hachioji-school.ed.jp/komye/>

〇かしこい子 〇たくましい子 〇ゆたかな子 〇みんなと仲よく生きぬく子

令和7年度 学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長 山北 雅史
令和7年11月1日発行
第8号

想定外を減らす

校長 山北 雅史

運動会の翌週振替休業日明けの水曜日から金曜日まで、私は全国連合小学校長会の研究協議会へ出席するために福岡へ飛びました。3日間も学校を留守にするので、副校長先生をはじめ教職員には申し訳ない気持ちでしたが、北は北海道から南は沖縄まで、日本全国から集まってきた校長さんたちといろいろな話をする機会をいただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。少し東京とは違うイントネーション、味わいのある方言も混ざりながらの会話はとても和やかで、校長という同じ立場を共有しているがゆえに、すぐに打ち解けることができました。各都道府県や各地区、そして各校の取り組みを紹介し合い、その具体的な実践から学ぼうとする思いも同じです。

そうした中、テーマが学校の災害安全になった時のことです。とある県の校長さんが「こんなことをやってみました」と言いながら教えてくれた実践があります。それは休み時間明けの避難訓練の際に、あらかじめ学年の異なる二人の子どもと示し合わせて、見つからない場所に隠れていてもらったそうです。校長とそ二人だけの秘密です。教職員は誰も知りません。教頭先生にも知らせていません(その子たちの保護者には承諾をもらったそうです)。さて避難訓練の開始を知らせる非常放送があり、いつものように校庭に避難開始となった後のことです。当然のように「〇〇さんがいない!」「〇〇さんも!」となり、集合場所はちょっとしたパニックです。教職員もあちこち探そうとして思い思いの場所に走り出す始末。報告や相談もなく、当然指示系統も全く機能しなくなったそうです。避難訓練はどこの学校でも行っていますが、そこで想定外のことが起きることは、あまりありません。「〇年〇組、在籍〇名、欠席〇名、現在〇名、異常ありません」と各組ごとに管理職に報告して一件落着が普通です。でも考えてみれば、非常時はもともと想定外の連続なのでしょう。そうした時にこそパニックにならずに、どのように危機回避に向け組織的な行動できるのかが大事です。後で秘密の計画をまわりに伝えると「いやあ、先生たちにもものすごく怒られました」とのことですが、それによって課題がわかれば、その後の改善を図ることが可能です。「子どもが見つからないときにどうすればいいのか」を考える効果的な避難訓練になったことは事実です。ちょっと私には、そこまでやる勇気がありませんが・・・。

人は誰でも常に安心して過ごしたい、心穏やかに暮らしたいものです。でも非常時は突然にやってきます。「まさかうちの学校で・・・」ではなく「もしかしたらうちの学校で・・・」と考えること。子どもも教職員も、自分事の意識を高めていくことが大事だと改めて思いました。想定外をなくすることはできませんが、少しでも減らすことはできるはずです。東京へ向け離陸する飛行機の中で私は、目の前のモニターに映る「非常の際の案内」をいつになく注意深く見てしまいました。

